

令和8年3月25日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立西尾小学校

校長 安藤 嗣朗

事業テーマ	未来につなげよう、みんなの緑と豊かな心 — 自然と対話し、共生できる子どもの育成 —	
取組の目的	「自然との共生を感じ取れる児童」すなわち動植物と会話ができるような感性を磨くとともに、自然を守り育て、共生できる児童を育てる。また、学校林である「やまびこの森」や「ビオトープ」を整備する活動を通して、自然の大切さを実感し、持続可能な社会のために主体的に発信できる児童を育てる。	
区分 (○印を付ける)	新規事業・ 継続事業 (総事業年数12年間、12年目)	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	かつて行っていたギフチョウ生息地での活動は、生息地が荒れたため安全面を考え、調査を断念せざるを得なくなった。学校林やビオトープの整備や学習への活用についても活動が減り、子どもたちの関心が薄れてきた。そのため、学校林を後世に大切に引き継ぐために、地域の方の協力を得て整備を進め、子どもたち自身でも枝拾い等を行って、安全で安心して活動できる場にし、積極的に活用できるようにした。令和5年度には校内の自然観察を通し、学校林への親しみ・愛着を持たせる取組を進めてきた。 自然と対話し環境学習を進める中で、子どもたち自身に環境に関することをこの先へとつなげていく必要性を感じ取らせ、発信したり、自分たちにできることは何かを考え実践したりできるようにしていきたい。	
事業名	事業内容	実施時期
○校内の自然調査や学校林・ビオトープなどの整備	○ビオトープ付近の自然観察と整備 ・樹木の調査や昆虫・植物の観察 ・環境整備	4月～12月
○自然の良さ・維持継続に関わる活動	○自然と共生し、子どもの安全安心を守るための学校林整備 ・枯れ枝、枯れ木の撤去、間伐 ○ヤゴの観察 ○やまびこの森(学校林)の恵みを知る ・環境学習以外の学びや体験の場としての活用 ・シイタケ栽培	2月 5月 通年 本伏せ6月・菌打ち2月
取組の成果		
<p>年4回講師を招いての自然観察は、学年ごとにテーマをもって取り組んだ。4年生は季節ごとに校内の生き物や植物に触れ、新たな発見をしながら、観察することで視点を広げていった。5年生では各自が継続して木の観察に取り組み、年度末の発表では「春にも続けたい」と話していた。活動を通して、自然への愛着が確かに育ってきているようであった。6年生では、生物の体のつくりや特徴を調べた。統計を取り、季節ごとにスライドでビオトープの様子をまとめ、その過程で推移の理由を考えた。</p> <p>低学年ではシイタケ栽培を通して、子どもたちは自然環境が自分たちにもたらす恵みについて学ぶことができた。</p> <p>年度末に行った整備では、ビオトープや「やまびこの森」がすっきりとし、活動しやすく心地よい環境に整えられた。</p>		
課題		
自然環境を観察するこれらの活動を通して、児童はのびのびと過ごしながら自然への親しみを深めている。整えられ、活動しやすくなった環境の中で、今後は、この活動をさらに充実させるために、どのような方策を講じていくと効果的か検討していきたい。		